

学生生活のTOPICS

【残寮生活】  
留学帰国後の大学3年時に残寮生として活動しました。寮に住む後輩の模範たるべく、学問と諸活動に果敢に挑戦し、毎夜日をまたいで勉強に取り組んだことは自分を鍛えるうえでの骨格となっています。



【フィリピンボランティア】  
大学2年の春に、フィリピンへボランティアに赴きました。学校教員として子どもたちに触れ合い感じた、もがきながらも懸命に生きる彼らの姿は、途上国支援を志すうえでの原点となっています。



【創大祭実行委員】  
大学2年および3年次、創大祭の実行委員会として活動しました。勉強漬けだった私にとって、他学部同期／後輩／先輩とともに活動できたことは非常に刺激となり、人生どう生きるかを再考する機会となりました。



JICA への道

語学  
英語に加え、関心地域の言語を勉強するべし。

なぜマネジメント側？  
現場ではなく上流部分の国際協力を選ぶ理由を考えるべし。

小論文  
二次選考で小論文。普段から社会に目を向け自分の意見を構築すべし。

JICAで働くうえで  
私が必要と思う  
SOKA Generic Skill

- 《論理的思考力》
- 《対人基礎力》
- 《創造的思考力》

リピンの小学校で日本語教師のボランティアに挑戦。活動する中で教育以外にも経済格差やインフラ整備などの課題に気づいた。活動を終える頃には、「子どもたちのためになることは教育だけじゃない。教育以外のアプローチでも貢献したい」と考えるようになった。国際教養学部で多くの社会課題を学んできたからこそその気づきだった。就職活動を進める中、保健・経済発展・難民支援など多様な分野で途上国を支援することができるJICAに進むことを決めた。「現地に根付く持続可能な改革を通して、途上国の子どもたちに貢献したい」。ボランティアで出会った子どもたちの笑顔を胸に、加藤は力強く国際協力の道を歩み始めている。

「人の幸福のために」学び、行動する自分になりたい

帰国後、加藤は創大祭の運営準備に携わった。その際に出会った友人たちの「人のために」と行動する姿に心が大きく揺

「できないやつ」だと思われているんじゃないか。その不安を掻き消すため、大学の授業に加え、部屋に籠って日常会話からアカデミックな英語まで必死に勉強した。その努力が実り、留学も終盤に差し掛かった頃には、ルームメイトが「見違えるように上達したね」と驚くほどになった。

イギリスでは劣等生だ

入学後の猛勉強を経て、最難関のイギリス留学に挑んだ。留学初日、ルームメイトからふと話しかけられたが、全く聞き取れなかった。3回聞き返すも、やはり聞き取れない。諦めずもう一度聞き返そうとしたとき「もういいよ」と一言。たわいもない会話もできない自分が恥ずかしかった。

現地で確かめた「途上国の子どもたちのために行動したい」との想い

2年次の終わり、就職活動を迎えるにあたりキャリアセンターに足を運んだ。「途上国の子どもへの教育に携わりたい」と夢を語る加藤に返ってきたのは「加藤さんは途上国に行ったことあるの？」という言葉だった。途上国の現状も知らずに夢を語っていたことに気づき、ハッとした。まずは現状を知ろうと、春休みにフィ

さぶられた。「いままでは自分のためだけに学んできた。でも、それだけでいいのだろうか」。創大祭を終える頃には、「自分のためだけではなく、人の幸福のために」学び、行動できる人になりたい。そう考えるようになっていた。

# 加藤さんは途上国に行ったことあるの？



加藤真一郎  
Shinichiro Kato